

SHIRAKOBATO

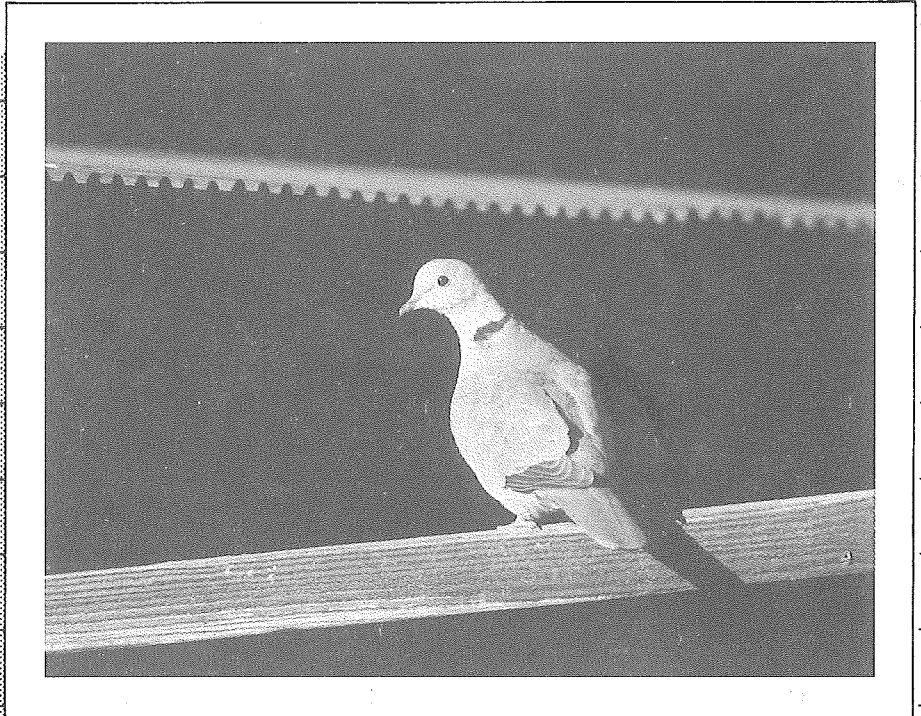
しらこぼと



2000. 1

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 189

日本野鳥の会 埼玉県支部

2000年だよシラコバト

本年はいよいよ20世紀最後の年です。当支部では、「シラコバト生息調査」を世紀をまたいで行うことになりました。

●シラコバト調査の経緯

ご存じの通り、シラコバトは埼玉県の鳥ですが、その生息調査は20年前、1978年から82年にかけて埼玉県教育委員会の委託により（財）日本野鳥の会が実施して以来、行われていません。支部の探鳥会でも、常に観察できる鳥ではなく、県内の人にとっても珍鳥の部類に入るのはないでしょうか。

県外の鳥仲間から東京出張のついでにシラコバトを是非見たいと頼まれて困った方もあります。支部のホームページでは、そんな人のために何処に行けば高い確率で見られるか情報を提供しています。が、いっそのこと、支部で生息調査をしようという話が持ち上がり、昨年10月の役員会で研究部の協力のもと、シラコバト調査委員会の発足が決定されました。

委員会名は多少遊び心を込めて、「シラコバト見つけ隊」と名付けられました。隊長は橋口長和幹事、副隊長は高文子幹事と玉井正晴幹事が就任しました。

12月5日には、支部事務所で県東部の7名のリーダー達も参加し、第1回の会合を開催しました。今後のスケジュールと簡単な分担、およびご協力していただく隊員の募集について話し合いました。

●シラコバトの分布について

前回1982年の埼玉県教育委員会の調査報告を見ると、分布の中心は埼玉県越谷市で、茨城県、千葉県へも分布拡大が見られました。また、荒川の秋ヶ瀬を挟んだ兩岸にも飛び地的に分布がありました。（図-1参照）

昨年1999年の後半に図-1の範囲外から報告があった主な場所は、図-2の通りです。

北や北西への進出が顕著で、騎西町、加須市、大利根町、北川辺町、栗橋町、茨城県五霞町では、生息密度が濃くなっています。

その外側では北本市石戸宿、鴻巣駅周辺、行田市、熊谷市東部、群馬県明和町、栃木県藤岡市、茨城県岩井市菅生沼等が挙げられます。近年、秋ヶ瀬、道満での報告がほとんどなくなり、東方向も20年前の調査から広がりが少ないようです。一方、船橋海浜公園の支部探鳥会で記録されています。

●シラコバトの生態について

前回の調査報告では、シラコバトの生息環境の3条件というものがあります。

- ・採餌場として養鶏場や畑などの農地があること
- ・営巣場所・ねぐらおよび休息場所としての屋敷林（防風林や生け垣、庭木など）が多いこと
- ・河川や用水路などの水場が多いこと

農耕地の間に屋敷林に囲まれた農家が点在するような環境に生息し、数羽から10数羽の小群で行動しながら、畑・水田・空地などの地上から採餌する姿がうかんできます。

草の実や穀物などの植物質の餌を主に食べ、昆虫も食べることがあるといます。養鶏場、養豚場も重要なファクターで、穀物飼料のこぼれたものを食べるために集まることが非常に多いのも特徴です。

三郷、吉川、松伏、越谷では90%以上の確率でシラコバトを確認できます。逆に、春日部や岩槻では牧場と養豚場の廃業後、6ヶ月程で個体の確認ができなくなっています。今回の調査では、広く調査範囲内の牧場、養鶏場、養豚場を調査の対象にしています。

もうひとつ重要な要素である水場について、興味ある情報があります。北西に分布域を広げた経路に綾瀬川、見沼代用水と武蔵水路があり、河川・用水が大きな役割を果たしているようです。

繁殖は春が中心ですが、春以外でもほぼ1

年中行われるとのこと。特に5月から9月にかけて、養鶏場の餌場でさえ個体数が激減し、この間が繁殖期と考えられます。

繁殖は、稀に建物に営巣が見られますが、通常は狭くとも密な林が選ばれます。木の枝の上に枯れ枝を積み重ねて浅い皿形の巣を作り、2卵を産みます。抱卵日数は14日位、巣立ちまでの日数は18日位です。他のハト類と同様に、ピジョンミルクと呼ばれる分泌物で育雛します。

●調査の概要

調査期間：2000年1月1日～2001年12月31日
(2年間)

調査地域：埼玉県および近隣県とし、図-2の白抜き部分の24メッシュ [1/25,000地形図に相当] を想定します。

●調査の方法

(1) 初年度

支部報『しらこぼと』で広報し、会員の協力により観察報告の収集を行います。インターネットを最大限に活用し、オンラインでも観察報告の収集をします。

さらに、見つけ隊隊員により境界部の観察報告確認や、分布域内の生息状況の現地調査を行い、次年度に行うメッシュ調査の資料を作成します。

(2) 2年度

引き続き、会員やインターネットからの観察報告の収集を行うとともに、初年度の結果を基に対象エリアを決定し、見つけ隊隊員を中心として生息・繁殖調査を実施します。

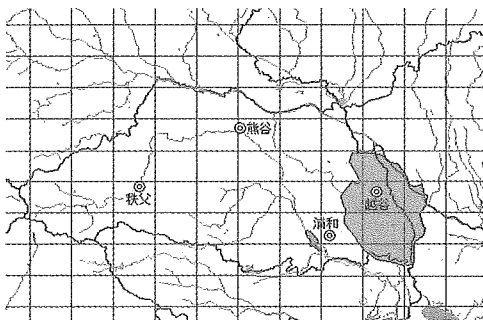


図-1

●調査の発表

支部報の野鳥観察欄に『しらこぼと情報』コーナーを新設し、観察報告やコラムを毎月掲載します。また、支部ホームページに観察報告と分布をプロットした地図を適時掲載します。

最終報告については、今後報告書の作成などについて支部役員会で決定し実施することになります。

●見つけ隊隊員大募集中!!

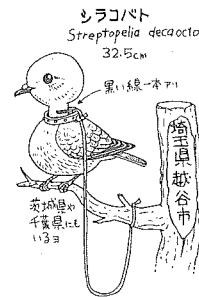
隊員を広く会員から募集しています。調査の経験は問いません。隊員は次の仕事のお手伝いをお願いします。

- ・行政区分またはサブメッシュ (図-2のメッシュの1/4) 毎に調査担当者として現地調査をお願いします。

- ・担当地域毎に、一部の観察報告の確認調査や、養鶏場・養豚場等の重点場所の調査をお願いします。

- ・出来る範囲で、調査結果の整理や集計作業への協力をお願いします。

ご協力いただける方は、橋口長和隊長 (〒



(富士鷹なすび)

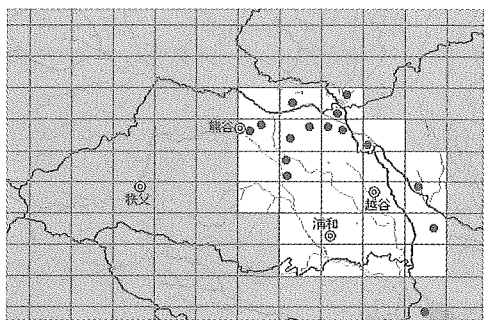


図-2

シラコバト観察報告書式

1. 観察年月日

年月日：2000/2001年__月__日

時刻：日の出～AM9 AM9～正午 正午～PM3 PM3～日没

天気：晴れ 曇り 雨 その他_____

2. 観察場所

地図上にプロットできるように、なるべく詳しくお願いします。

都県：埼玉県 群馬県 栃木県 茨城県 千葉県 東京都 その他

住所：〇〇市××町△△番地付近、〇〇市立□□小学校南側付近など具体的に

環境1：農業地 住宅地 商業地 工場地 河川敷 その他_____

その地点から半径100m内で割合の一番大きな環境を選んでください。

環境2：近所に養鶏場、養豚場や牧場があり、餌場になっている

近所に動物園や学校の飼育施設があり、餌場になっている

屋敷林や雑木林をめぐらしている

鉄道の駅舎など建物をめぐらしている

その他_____

3. 観察内容

個体数：_____羽

状況1：採餌 飛翔 ねぐら入り 営巣・繁殖 その他_____

状況2：1年前に比べて、シラコバトの数は変化していますか、感じて結構です。

増加 変わらず 減少 見なくなった 初めて確認 分からない

4. あなたのプロフィールを教えてください。

お名前：_____

ご住所：_____

お電話：_____ FAX：_____ Eメール：_____

あなたは日本野鳥の会の会員ですか？ 会員 会員でない

野鳥観察歴は：経験無し 1年未満 1年～5年 5年以上

5. その他ご意見、気がついたことがありましたら、お願いいたします。

宛先：これをコピーして、FAXまたは郵便で支部事務局『シラコバト見つけ隊』まで

新年明けましておめでとうございます。会員の皆様におかれましては、健やかに新しい年2000年をお迎えのことと存じます。

昨年当支部は満15年を迎え、活発な活動ができました。各探鳥会の参加者が確実に増えています。私も各地の探鳥会に毎週のように参加していますが、60人、70人という探鳥会が目立つようになり、安全面、自然環境への影響、一般の方への迷惑など、考えなければならぬことが沢山あり、今年度の課題のひとつとして、対策を検討したいと思います。探鳥会の分散化などが考えられますが、皆様の良い考えがありましたら、教えて下さい。

埼玉県支部には、専従職員は1人もいません。収益事業として開催している探鳥会も、1カ所もありません。全部ボランティアの手で運営しています。

今後も特定の人だけに負担がかからないように気を配りたいと思いますが、皆様のご協力がなければ出来ません。いろいろな面でのご協力をお願いします。

今年も皆様と一緒にバードウォッチングを楽しみ、1人でも多くの人に、自然を愛する心を伝えたいと思っています。

日本野鳥の会埼玉県支部
支部長 中島康夫



ヒメクビワカモメ

チドリ目カモメ科ヒメクビワカモメ属

英名 Ross's Gull

学名 *Rhodostethia rosea*

全長30cm位、ユリカモメより少し小さい。

シベリアの北極圏、少数はカナダ最北部・グリーンランド沿岸のツンドラで繁殖する。北方で繁殖することは知られていたが、具体的な繁殖地は長い間不明だった。1905年にシベリア北部の川沿いの低木地に巣作りしているのが発見され、最近になって、カナダ北部やグリーンランドでの繁殖が確認された。

日本では、北海道への迷行例などがごく僅か記録されているだけ。

11月22日ごろから千葉県習志野市の谷津干潟で観察されている個体は、胸腹部のバラ色が淡く、雨覆の一部と外側初列風切が黒くて飛んだ時に明瞭にM字状の黒線となって見えるので、1年目の若鳥と考えられている。

(写真・海老原美夫、解説・編集部)



コキンメフクロウ

フクロウ目フクロウ科コキンメフクロウ属

英名 Little Owl

学名 *Athene noctua*

全長20cm位の小型のフクロウ。アメリカ北部、ヨーロッパから中国北部に分布。但し、その分布域の東端は、日本海沿岸までは広がっておらず、朝鮮半島には生息していない。

色が濃くて模様のはっきりしている西ヨーロッパの亜種から、非常に色の薄い中東砂漠の亜種まで、変化に富んでいる。

公園・農地や岩の多い半砂漠・ステップなど開けた場所で日中でもかなり行動し、いつも決まった場所をねぐらにする事が多い。

小型ほ乳類・小鳥・トカゲ・ヘビ・昆虫・ミミズなど、環境に応じて様々捕食する。

1999年11月初め頃から富士見市針ヶ谷地区で観察されている個体は、最近多数輸入されているロシアの亜種に酷似しているとの説もあり、いわゆる「籠抜け」と考えられる。

(写真・外園たけの、解説・編集部)

またカラカラと出会いたい

今村友紀子（川越市）

カラカラの詳しい情報、ワクワクして読みました。10月24日の探鳥会の後、25日、26日、11月5日にも、初雁橋と川越橋近くで目撃しました。悠々と飛ぶ姿は、目とくちばしあたりの赤と黄色が肉眼でもはっきり分かるせいか、とても可愛く見えました。

鈴や紐の話には、心が痛む思いです。

このあたりでは、餌もとれているようですし、また出会えることを楽しみに、散歩しています。

12月号『しらこぼと』では、「電柱にとまって餌を食べていた」とありますが、「川越線と東武東上線の鉄橋」とお電話したと思います。

写真が撮られた方、あの高いところを良く撮れましたね。

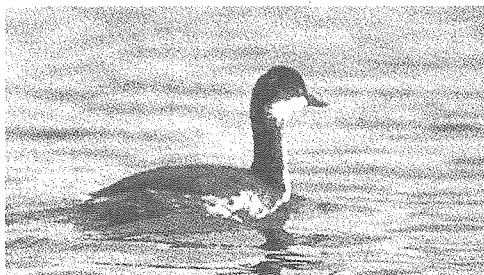
今年も来てくれた

畔田祐子（川越市）

10月末にコスモスを見に吹上市の大芦橋に行った。川原に鳩が落ちていた！ 死体？でも、近づくと足だけ動かしている。前の週に道路で鳩の死体を拾ったばかりで、とても怖かったけど、生きていたのなら、今度はどこに行けば助かるのか。

持ち上げると、羽がからまっていることがわかった。動かない。もう一度ほどくと、やっと翼が広がった。

左肩が少し後方にずれている。おいおい、看護婦なんだろうと、自分をはげまして観察すると、骨折はなかった。赤と白の2種類の足輪をつけている。



ハジロカイツブリ（松村禎夫）



コチョウゲンボウ（島田恵司）

掌で温めると、体をふるわせて、6歩目で空へ飛び立った。

11月17日。今日外でジョウビタキがすどく鳴いていた。毎年来る夫婦の、オスの方だ。

生きていて、来てくれてありがとう。そう思った。心から。

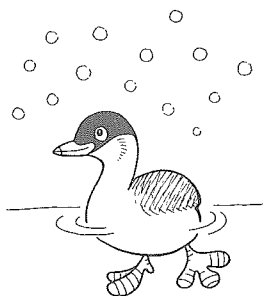
ツミ若鳥とオナガ

浅見健一（大宮市）

9月17日午後4時ごろ、久々に帰省した息子と二人で、近所の林へツドリを探しに行った時です。桜並木よりオナガの騒がしい声。その中に時々「キョ、キョ」と聞こえる声があるので、そっと接近。小型のタカが7羽ほどのオナガに取り囲まれているのです。タカがじっと枝に止まっていると、オナガはただ周りにいるだけですが、少しでも移動（枝移り）すると大騒ぎで追い回します。たまりかねて飛び出すと、しつこくモビングされます。桜並木と松の木を行ったり来たり、タカは飛ぶたびに小さく声を出していました。オナガのしつこさに感心するくらいです。時々タカも黄色い足を出し反撃を試みますが、多勢に無勢、残念ながら勝ちめはありません。一度、電柱に止まってくれましたが、私達にはタカが困った顔をしているように感じられました。タカは体の大きさ（尾羽を除く）がオナガぐらいでため、上面：褐色、下面：白味、胸：縦斑、腹：横斑、目：黄、ツミの若鳥と思えました。早く脱出しなければ疲れてしまうだろうなど二人で話しながら、そっとその場を離れました。

ツドリですか？ もちろん、しっかり1羽観察できました（息子だけが）。

行事あんない



(何森 要)

久喜市・菖蒲公園探鳥会

期日：1月8日(土)

集合：午前9時30分、久喜菖蒲公園駐車場。

交通：JR宇都宮線白岡駅西口より、東武バス「菖蒲仲橋」行き8：49発にて、「除堀(よけぼり)」下車、徒歩約15分(バス停からご案内します)。

担当：大坂、中島(康)、玉井、内田、長嶋、深井
見どころ：今年はトモエガモに会えることを期待して参加してみませんか。アメリカカヒドリや他のカモたち、アシの中のオオジュリンも歓迎してくれるでしょう。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：1月9日(日)

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷9：11発、または寄居8：49発に乗車。

担当：和田、森本、中島(章)、石井(博)、倉崎、松本、中里、高橋、後藤

見どころ：いよいよ来ました2000年初の大麻生探鳥会。昨年夏の異常な暑さの割りには冬鳥の渡来は順調のようです。風は冷たいでしょうが元気に歩きましょう。アカゲラ、アオゲラ、カモ類の外に猛禽類との出会いも期待できます。

春日部市・内牧公園探鳥会

期日：1月9日(日)

特別な場合を除いて予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私達もあなたを探していますので、ご心配なく。

参加費は一般100円。会員と中学生以下50円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後1時頃。小雨決行です。

自然保護のため、できるだけ電車バスなどをご利用のうえ、指定の集合場所までおいでください。

集合：午前8時30分、東武伊勢崎線春日部駅西口東武バス1番バス停前、集合後バスにて現地へ。または午前9時15分、アスレチック公園前駐車場。

担当：吉安、中村(榮)、橋口、入山、新井(良)、松永、宮下、吉岡(明)

見どころ：初春の探鳥を、内牧公園で体験しませんか。葉を落とした雑木林では、冬鳥たちが皆さんをお待ちしています。暖かい服装でさあ思い切ってお出かけください。

千葉県・船橋海浜公園探鳥会

期日：1月9日(日)

集合：午前9時30分、JR総武線船橋駅改札口付近、集合後現地へ。京成バス9：40発「船橋海浜公園」行きにて、終点下車。

担当：杉本、佐久間、菱沼(一)、篠原

見どころ：数万羽のスズガモに加えて、ミヤコドリが約40羽と越冬記録を更新中。海とアシ原の鳥に加えて、タカ類が期待できます。鳥の数なら三番瀬におまかせ！ 防寒じたくはしっかりと。

吉見町・吉見百穴公園周辺探鳥会

期日：1月10日(月・祝)

集合：午前9時30分、吉見百穴公園前。

交通：JR高崎線鴻巣駅東口、中村カメラ店前より、東武バス8：53発「東松山」行にて、「百穴入口」下車、徒歩5分。

担当：榎本、岡安、内藤、藤掛、立岩、島田、今井
見どころ：あんなカモいるカモ。吉見百穴から大沼まで鳥を探して歩きます。もちろん上空にも気をつけて。

注意：駐車場利用者は、必ず百穴入場券を購入し、フロントガラス内側に見えるように置いてください。

滑川町・武蔵丘陵森林公園探鳥会

期日：1月12日（水）

集合：午前10時10分、森林公園南口前。

交通：東武東上線森林公園駅下車、「森林公園南口」行9:54発バスにて、終点下車。

費用：入園料400円（子供80円）

担当：藤掛、櫻庭、中村（榮）、大坂、兼元、堀、高橋

見どころ：初春の平日探鳥会です。人影もまばらな静かな公園で、ヒタキやカラ類を探しましょう。そして山田大沼ではカモのカウントもしてみませんか。解散後は、日溜まりで御弁当を広げながら、鳥情報の交換をしましょうか。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：1月16日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、浦和市立郷土博物館前。

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見、福井、手塚、伊藤、倉林、渡辺（周）、笠原、若林、兼元、森（力）、清水、前澤

見どころ：新年の「おめでとう！」は同じ見沼たんぼのさぎ山記念公園で、挨拶したっけ。でも、三室でもおめでとうを言わないと新しい年が明けないようだ。今年も仲良く、楽しく、鳥と人々のつながりを作りたい。幸せの黄色いリボンが新しい参加者を待っています。

北川辺町・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：1月16日（日）

集合：午前9時15分、東武日光線柳生駅前。または午前9時30分、中央エントラン

ス駐車場。

交通：JR宇都宮線大宮8:19→栗橋8:53着、栗橋にて東武日光線乗り換え8:58発。または東武日光線新越谷8:20→春日部8:38→栗橋8:58→柳生9:08着。

解散：13時頃、谷中村史跡駐車場

担当：橋口、玉井、高（文）、入山、内田、高（剋）、田邊、中里

見どころ：昨年の1月と同様、片道5kmの行程でタカ見台まで足を延ばし、タカ類を中心に観察します。途中の谷中湖のカモ類や赤い鳥も期待できます。寒さが厳しいので、十分な防寒対策と昼食持参でお出かけください。

長瀬町・長瀬探鳥会

期日：1月16日（日）

集合：午前9時30分、秩父鉄道長瀬駅前。

交通：秩父鉄道熊谷8:23発、または御花畑9:05発（西武鉄道所沢7:44発乗り入れ）に乗車。

担当：小池、佐久間、青山、林（滋）、井上、堀、堀口、喜多

見どころ：荒川もやっと静かになり、野鳥たちもほっと一息です。長瀬は水辺の鳥から草原の鳥まで、約40種前後は毎回観察できるフィールドです。目玉はオシドリとヤマセミかな。

大宮市・花の丘公園探鳥会

期日：1月23日（日）

集合：午前9時20分、花の丘公園バスターミナル駐車場。

交通：JR高崎線宮原駅西口より、東武バス「大宮花の丘」行き9:00発にて、終点下車。

担当：浅見、櫻庭、中村（榮）、高（文）、飯塚、高（剋）、有馬、松村

見どころ：公園周辺の、緑の景観地の林で身近な冬鳥たちを探します。カラ類の混群に出会うと、その中にはヒガラ・ヤマガラたちがいるでしょう。アオゲラにも会いたいですね。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：1月23日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越8：42発、所沢8：36発に乗車。

担当：長谷部、高草木、藤掛、石井（幸）、中村（祐）、山本（真）、小野、久保田、山本（義）

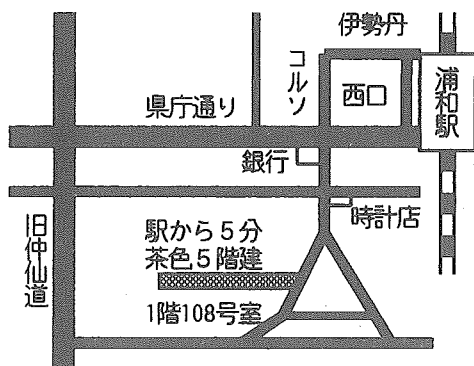
見どころ：今年も、鳥好き自然好き仲間と楽しく過ごそう。入間川の河原と稲荷山公園で、身近に生活している鳥たちを中心に見ていきます。

「しらこぼと」袋づめの会

とき：1月29日（土）午後1時～2時ごろ

会場：支部事務局108号室

案内：冬は暦のうえでは立冬から立春の前日までだが、1月、2月は北西の季節風が吹き、1年中でも最も寒い季節だ。この寒い最中に「袋づめ」。ついつい出不精になりがちです。そこで会場は、湯茶のサービス怠りなく、暖房も効かせて、皆様のお出かけをお待ちしております。



野田市・清水公園探鳥会

期日：1月29日（土）

集合：午前9時30分、清水公園仁王門前。

交通：東武野田線大宮8：19発、春日部8：48発柏行きにて清水公園下車。徒歩約10分。

担当：中村（榮）、新井（良）、吉岡（明）、

田邊、本田、大塚、小菅

見どころ：今回は暖冬の影響もあってか冬鳥の出足も今少しというところ。今回は林のルリビタキやアカハラ、水辺のクサシギなども皆さんを待っています。小さな春も探してみましよう。

宮城県・伊豆沼探鳥会（要予約）

期日：1月29日（土）～30日（日）

定員に達しましたので締め切りました。

千葉県・銚子港探鳥会（要予約）

期日：1月29日（土）～30日（日）

定員に達しましたので締め切りました。

草加市・そうか公園探鳥会

期日：1月30日（日）

集合：午前9時45分、東武伊勢崎線松原団地駅東口、集合後バスで現地へ。東武バス「青柳循環」9：00発にて、「総合グランド前」下車。または午前9時30分、そうか公園第2駐車場。

担当：山部、神場、新井（良）、大塚、小菅、田邊、本田、吉岡（明）

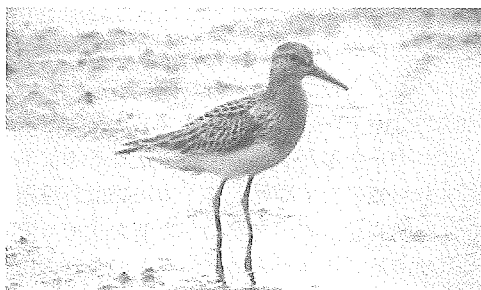
見どころ：超ビギナー向け探鳥会。ホシハジロ、キンクロハジロ、ハシビロガモ、カルガモ、コガモだけ、これらのカモ達を間近な距離で目の色まで観察します。12色ほどの色鉛筆があるととっても楽しめます。

◆2月の行事予定

2月6日（日）蓮田市黒浜沼探鳥会

北本市石戸宿定例探鳥会

浦和市民家園周辺定例探鳥会



アメリカウズラシギ（島田恵司）

撮影地：茨城県甘田干拓地

行事報告

9月23日(木) タカの渡り調査

ボランティア: 22人

榎本秀和、大坂幸男、神谷亨、神谷純、北村隆、小荷田行男、後藤康夫、澤井清、澤田衆平、島田恵司、島田沙織里、島田貴子、中里裕一、藤掛保司、逸見嶮、松井昭吾、松井昭子、森永兼一、森本國夫、山口綾子、山田義郎、和田康男 ◇ 調査地点は、丸山展望台(横瀬町)、鐘撞堂山(寄居町)、物見山(東松山市、鳩山町)、天覧山(飯能市)で、23日を中心に調査が行われた。

10月30日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 17人

江浪功、海老原教子、海老原美夫、大坂幸男、尾崎甲四郎、倉林宗太郎、佐久間博文、篠原東彦、島田恵司、島田沙織里、福井昭子、藤掛保司、藤野富代、増尾隆、松井昭吾、松村禎夫、百瀬修

10月31日(日) 北川辺町 渡良瀬遊水地

参加: 84人 天気: 曇

カイツブリ ハジロカイツブリ ミミカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ スズガモ トビ ノスリ チュウヒ タゲリ ハマシギ ツルシギ アオアシシギ ユリカモメ セグロカモメ カモメ アジサシ シラコバト キジバト ヒバリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ シジュウカラ ホオジロ オオジュリン カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシボソガラス (47種) 新聞に案内が載ったせいか、遠方からの参加者も多く大行列となった。ビギナーが多かったので、予定外の方にもリーダーをお願いして開始した。カモ類は11種飛来しており換羽途上の少々変わった姿を含めて楽しんだ。期待外であったアオアシシギの群れの中にツルシギやハマシギが混じっていたり、カモメ、

アジサシが出現したり、予想以上ににぎやかな探鳥会であった。(玉井正晴)

11月6~7日(土~日) 長野県 白馬山麓

参加: 25人 天気: 晴

カンムリカイツブリ アオサギ カルガモ ホシハジロ キンクロハジロ トビ ノスリ ワシタカsp シギsp キジバト アオゲラ アカゲラ コゲラ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ カワガラス ミソサザイ シロハラ マミチャジナイ ツグミ ウグイス キクイタダキ ムシクイsp エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ ミヤマホオジロ アオジ アトリ カワラヒワ ベニマシコ イカル スズメ カケス ハシボソガラス ハシボソガラス (45種) 秋の「白馬」では、木漏れ日の林道を歩いていると木の実や草の種を懸命に食べている鳥たちに出会うことができる。また、ヤマモミジやイタヤカエデ、カラマツなどの紅葉や白馬連山のモルゲンロートなど、美しい自然の彩りに圧倒される。今回も、ミヤマウメモドキ、キミズミといった木の実やカラコギカエデ、ウリカエデ、ハナノキといった珍しいモミジの仲間などが観察できた。冬になり、白馬の自然は静かな眠りにつこうとしている。(小池一男)

11月7日(日) 上尾市 丸山公園

参加: 42人 天気: 曇

カイツブリ ハジロカイツブリ カワウ コサギ トビ ハイタカ コジュケイ キジ タゲリ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス ヤマガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒワ ベニマシコ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシボソガラス (34種) 秋、冬の代表、モズとジョウビタキのひよを全員

で確認する目標で出発。前半は鳥も少なく、リーダー泣かせ。しかし、皆さんの協力で思わぬ鳥たちに会え、まずまず。ヤマガラ、タグリ、ベニマシコ、カワセミが人気。秋晴れでなかったのが残念。(私は曇り男かも。)(浅見健一)

11月11~13日(木~土)新潟県 湖・池・潟めぐり

参加: 27人 天気: 晴

カイツブリ ハジロカイツブリ ミミカイツブリ
カンムリカイツブリ オオミズナギドリ カワウ
ウミウ ダイサギ コサギ アオサギ シジュウ
カラガン マガン オオヒシクイ ハクガン オ
オハクチョウ コハクチョウ オシドリ マガモ
カルガモ コガモ ヨシガモ オカヨシガモ ヒ
ドリガモ アメリカヒドリ オナガガモ ハシビ
ロガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイ
サ カワアイサ トビ オオタカ ハイタカ ケ
アシノスリ ノスリ ハイロチュウヒ チュウ
ヒ ハヤブサ チョウゲンボウ バン オオバン
タグリ ユリカモメ セグロカモメ ウミネコ
キジバト アオゲラ アカゲラ ハクセキレイ
セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ
イソヒヨドリ ツグミ ウグイス セッカ エナ
ガ シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダ
カ カワラヒワ スズメ ムクドリ カケス ハ
シボソガラス ハシブトガラス (68種) 朝日池、
福島潟、佐潟を中心に、3日間存分に鳥見を楽し
んできた。オオヒシクイ、マガン、オオタカ、ノ
スリ、チュウヒ、1万羽を越えるカモの群れなど、
どこでも沢山の鳥に出会うことができた。幸運に
も、朝日池でシジュウカラガン、福島潟でハクガ
ンにも出会えた。ラムサール条約で指定された佐
潟では、レンジャーより湿地のすばらしさ、大切
さについての講話も聞いた。(中島康夫)

11月14日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 44人 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ アオサギ コハ
クチョウ マガモ カルガモ ヒドリガモ オナ
ガガモ ハシビロガモ ホシハジロ トビ オオ
タカ ハイタカ ノスリ ハヤブサ キジ タゲ
リ アオアシシギ キジバト アカゲラ コゲラ
ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキ
レイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ シロハラ
ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオ

ジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ
スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガ
ラス (43種) 朝から快晴で風もなし。このよう
な日には猛禽類が……と期待したとおり出た。
トビ、オオタカ、ノスリ、ハイタカ、ハヤブサ等々。
ハヤブサはカラスにも邪魔されず、真上で悠然と
舞ってくれた。首は疲れたが、猛禽マニアには楽
しい一日だった。(和田康男)

11月14日(日) 富士見市 柳瀬川

参加: 74人 天気: 晴

カワウ ダイサギ コサギ マガモ カルガモ
コガモ ヒドリガモ オナガガモ ホシハジロ
チョウゲンボウ キジ イカルチドリ タグリ
クサシギ イソシギ タシギ ユリカモメ キジ
バト ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグ
ロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウ
ビタキ ツグミ シジュウカラ メジロ ホオジ
ロ カシラダカ アオジ カワラヒワ ベニマシ
コ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブ
トガラス (38種) 田圃にひこばえが伸びた小春日
和の日。多数の参加者で長い列となった。カモ類
の数は少なかった。メインのタグリ、ツグミ、ジ
ョウビタキは到着したばかりで落ち着けない様子。
初出現のベニマシコはラッキー。チョウゲンボウの
停空飛翔とタシギは全員が見られた。終了後、コキ
ンメフクロウをビデオに収録。(高草木泰行)

11月23日(火、休) 春日部市 内牧公園

参加: 70人 天気: 曇

ゴイサギ コサギ コジュケイ キジバト アオ
ゲラ アカゲラ コゲラ ヒバリ ハクセキレイ
セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジ
ョウビタキ アカハラ ツグミ ウグイス シジ
ュウカラ メジロ ホオジロ アオジ カワラヒ
ワ シメ スズメ ムクドリ カケス ハシボソ
ガラス ハシブトガラス (28種) 祝日で当地のみ
1箇所の探鳥会のせいか、参加者70人と過去最高
でびっくり。初めの公園の池周辺でじっくり時間
を取り、シメ、ツグミなどを見る。管理事務所近
くで、アカゲラ、アオゲラ、アカハラと立て続け
に出現し、この後ジョウビタキも出てくれて感激。
刈り田ではタヒバリ、ヒバリを確認する。出現鳥
もこの時期最高の28種で、みんな満足した探鳥会
だった。(吉安一彦)

連絡帳

●猟期中、注意!!

例年通り、11月15日から2月15日までは、狩猟期間です。

11月5日(金)に開催された猟期前の研修会に出席した福井恒人幹事(県鳥獣保護員)の報告によると、昨年度全国の狩猟事故は32件、その内死亡事故は6件との事。今年度は既に、12月13日、横瀬町芦ヶ久保の竹林で、誤射による死亡事故が発生しています。

鳥獣保護区・特別保護地区・銃猟禁止区域・休猟区のほか、公道・公園・社寺境内・墓地・市街その他人家の立て込んだ場所・人の多く集まる場所での銃猟や、日没後から日の出前までの銃猟、弾丸の達するおそれのある人畜・建物・電車・艦船などに向けての発砲は禁止されています。作物のある土地や柵などの囲いのある土地での狩猟は、占有者の承諾が必要です。その他、様々な規制がありますが、事故は後を絶ちません。

特に日の出直後に銃猟が盛んです。早朝の河川敷などは、要注意です。

目立たない服装で、鳥をおどかさないように藪に隠れたりしていると、バードウォッチャーがいることに気付かず近くに発砲されたり、最悪の場合は、誤射されるかもしれません。

銃猟が行われている場所では、そこにバードウォッチャーがいることが分かるように行動することが必要です。

林の中の罾なども危険です。

違反の猟が行われている疑いがある時や、分からないことがある時は、それぞれの地区の環境管理事務所にお問い合わせください。

中央環境管理事務所 048-822-5199

西部環境管理事務所 0492-44-1250

秩父環境管理事務所 0494-23-1511

北部環境管理事務所 0485-23-2800

東部環境管理事務所 0480-34-4011

環境管理事務所の管轄範囲が分からない時や、県全域にまたがる問題の場合などの問い合わせ先は、

埼玉県庁自然保護課野生生物担当

直通048-830-3154 です。

●支部の普及活動

10月31日(日)~11月1日(月)の2日間、群馬県沼田市発地、玉原朝日の森で開催された森林文化協会主催のバードウォッチングの会で、依頼を受けた当支部からは松井昭吾顧問・中島康夫支部長・藤掛保司幹事・高文字幹事の4名が参加、指導に当たりました。

●会員の普及活動

12月5日(日)、坂戸市鶴舞地区高麗川周辺で、「ふるさとの川高麗川を考える会」主催の第8回野鳥観察会が開催され、当支部会員の黒木昭雄・坂口稔・坂口和子・増尾隆・増尾節子の5名が指導しました。

●1月の事務局 土曜と日曜の予定

9日(日) シラコバト見つけ隊打ち合わせ。

15日(土) 編集会議、研究部会議。

16日(日) 役員会議。

22日(土) 校正作業。

29日(土) 袋づめの会。

●会員数は

12月1日現在3,030人です。

活動報告

11月16日(火) 普及部だより発送(海老原教子、楠見文子)。

11月20日(土) 12月号校正(海老原康夫、大坂幸男、喜多峻次、藤掛保司)。

11月21日(日) 役員会議(司会:島田恵司、各部の報告・関東ブロック協議会報告・その他)。

11月29日(月) 12月号発送(倉林宗太郎・藤掛保司)。

編集後記

毎年1月15日の成人の日に実施していたガンカモ科カウントを、本年は1月8日から10日までに実施します。リーダー各位に委託しての実施ですが、会員各位がご自分のフィールド等でカウント調査をした場合は、支部事務局の研究部宛、郵送でお送りいただければ幸いです。(研究部:小荷田行男)

『しらこぼと』2000年1月号(第189号) 定価100円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 中島康夫 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460
〒336-0012 浦和市岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号 郵便振替 00190-3-121130
インターネットホームページ http://www.bekkoame.or.jp/ro/wbsj-saitw/

住所変更・退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台1-47-1 小田急西新宿ビル1階
(財)日本野鳥の会会員センター業務室 TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

印刷 関東図書株式会社 (本誌掲載記事はすべて上記ホームページに転載されます。本誌から、またはホームページからの無断転載は、かたくお断わりします) 再生紙使用